

### 第十三回執行委員會

日時 四月二十三日午後七時  
場所 組合本部

出席者

土佐野副組合長、嶺主事、高崎、副島會計  
柴田、白石、廣田、山下、島村、野田、渡  
川、尾島、柴田、小野、大隈、古賀、井上  
志村、田中、坂本、花田、猪野、山口、谷  
口、原、篠原、坂田、吉田、大澤、龜重、  
内原

開會ノ辭

嶺 主事  
廣田 安

議 事

- 一、旅行に關する件
- 二、婦入組合員の會費半額に關する件
- 三、メーデー對策に關する件

### 第十四回執行委員會

日時 五月五日午後七時

場所 組合本部

出席者

土佐野副組合長、嶺主事、高崎會計  
篠原、猪野、柴田、内原、白石、眞鍋、谷

開會ノ辭

嶺 主事  
吉田善次郎

報 告

- 一、労働代表見送りに關する報告
- 二、健康保險組合會々報告
- 三、メーデー報告
- 四、會計會議報告

議 事

- 一、日本製鐵從業員組合當面の運動方針決定に關する件
- 二、組織部擴充に關する件
- 三、中元賞與に關する件
- 四、旅行に關する件
- 五、組合服制定に關する件

日本製鐵從業員組合

當面の行動方針書

一、製鐵産業の國家性保有の根本方針

製鐵産業は、言ふまでもなく、近代

的産業の基礎産業であつて、且つ國防上の見地からするも最も重要な國家的産業である。製鐵産業の不安、動搖は忽ちにして國內全産業を衰亡、萎縮させ、國防上の重大な缺陷を招來するものであるが故に、この國家的重要産業を資本家的營利本位の經營に墮斷させることに絶對反對したので、昨春、製鐵所全從業員が一齋に奮起して戦つた前後四ヶ月に亘る所謂、製鐵官民合同反對運動であつた。この製鐵所創設以來空前の大民衆運動と全從業員の決意とは充分に政府、貴衆兩院並に關係當局に徹底し、第六十四議會に於て成立した日本製鐵株式會社諸法を通じて嚴重なる取締り、監督が規定されてゐるが、現在の日本製鐵株式會社は豫定の十一社中、經營内容の優秀と言はれてゐる六社は合同に参加せず、内容の劣悪な五社で構成されたので結局、ボロ會社救済の批難の渦中にあるのが現

狀である。

かくして創立された新會社にして、果して製鐵産業の重要性を確保する新會社創立當初の根本精神に沿つて經營され得るか否かは甚だ疑わしく新會社の前途は極めて不安に閉されてゐる尤も、昨今は軍事インフレーションの浪に躍り上つて鐵工業は好況を呈してゐるが、このインフレーションは茲二年以上は斷じて續くものではない。インフレーションの詰りと共に襲ひ來る不況に際し、かかる空莫たるボロ會社の集合で構成された新會社では社債の亂發、無理配當に依つて、製鐵産業の根本を不安、動搖に陥るものである。

かかる危機に際して、製鐵産業の重大性を死守し、以て全從業員の生活保全を期するために、全從業員は益々一致協力し、その大同團結の實力を涵養伸張しておかねばならぬ。

二、勞資關係の融和に對する方針

製鐵産業の平和と發展を期するには

結局最も困難なる勞資關係を如何に融和、解決させるかに依る。勞資關係は矢張り、人と人とに依つて處理されるものであるから、結局に於ては、人間の問題に依ることが最も大である。會社側では眞に製鐵産業に經驗と誠實を持ち、從業員並に労働組合に對し充分なる理解を有する人を得、組合側も亦製鐵所の諸般の事情に精通し從業員の實際問題に正確なる認識を持つてゐる人を得、勞資關係の円滑、融和を圖ることにある。

われは昨春、日本製鐵株式會社法が成立した直後、全從業員大會の決議を以て代表を上京せしめ、「新會社經營主腦部の身分に國家性を保有させる制度創設の件」を首相並に關係各大臣に陳情しておいたのは一つは製鐵産業の國家性保有と一つは勞資問題の円滑を圖る見地より發したものである。然るに最近、製鐵所の工場關係幹部級に

三、労働諸條件の處理解決の方針

日本製鐵從業員組合が日鐵會社に對